



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ③

防災に向け気持ちを新たに 庄原市消防出初式

平成22年庄原市消防出初式が1月10日、市総合体育館で行われ、消防団員809人と備北地区消防組合の消防署員63人が参加しました。

式では、団員への辞令交付や永年勤続者たちへの感謝状の贈呈、滝口季彦市長による観閲などが行われ、防災に向け気持ちを新たにしました。また、初期消火などに努められた一般市民へ山口忠男消防団長から感謝状が贈られました。



▲新入団員を代表し、東城方面隊の河村倫秀さんが宣誓



▲滝口市長による観閲

山口団長は「過疎高齢化で災害弱者が増加し、消防団への期待が高まっている。消防団の組織力・動員力・地域密着性を発揮し、防火・防災・防犯に取り組もう」と訓示しました。

昨年、庄原市では39件の火災が発生し、一昨年より1件減っています。

歌やダンス、ふるさとで年越し 口和でカウントダウンイベント

REPORT ④



▲くつろぎながらステージ演奏を楽しむ

「カウントダウン モーモー」が12月31日、口和老人福祉センターで開催されました。

このイベントは、正月にあわせて帰省する人をはじめ地域住民に楽しんでもらおうと、口和町の若者で構

成するT.M.Cエンターテイメント(藤原弘幸代表)が企画。今回で5回目となります。会員自らがチラシを制作・配布するなどして、約30人が参加しました。

会場にはこたつを並べ、家庭的なくつろぎの雰囲気を出し、ステージでは、歌やダンス、ギター演奏などが披露され、参加者はステージ演奏に盛り上がり、こたつで年越しそばをすすったり、全員でカウントダウンを楽しみました。

T.M.Cによる演奏 ▶



無病息災・豊作を願う 湯川地区で「とんど祭り」

REPORT ①

上湯川・下湯川の両自治振興区(高野町)が1月11日、湯川コミュニティーセンターで伝統行事「とんど祭り」を開き、地域住民約50人が参加しました。

地元の青年会が中心になってやぐらを準備。各家庭から持ち寄った正月飾りなどを入れて点火されると勢いよく燃え上がり、「パン・パン」と竹がはじける音が響き、参加者から歓声が上がりました。



▲燃え上がる炎に願いを込める



▲残り火でもちを焼く子どもたち

会場では、暖かい豚汁や、飲み物が振る舞われたほか、やぐらが焼け落ちてからは残り火でもちを焼いて食べ、今年の無病息災や豊作を願いました。

REPORT ②

自転車で灯すヒバゴンの光 人力発電イルミネーション

色とりどりのイルミネーションが町を彩る冬。西城支所前で12月22日の夕方から夜にかけて、自転車をこいで発電する小さなイルミネーションが灯りました。

これは日ごろ何気なく使っている電気や、自然とのつながりなどを考える小さなエコの試みを通して、2010年のヒバゴン出没40周年をPRしようと、西城地域のワークショップ西城円卓会議から生まれた企画。「人力発電ヒバゴンイルミネーション」と名付けました。

町内の事業所から使わなくなった自動車の部品を譲り受け、円卓会議の有志が発電装置を製作。金網に電飾を一つ一つヒバゴンの形に飾り付け、クリスマス風の装飾を施した自転車に接続して、人力発電の装置が完成しました。

当日は、寒波の到来にも関わらず、約150人のギャラリーがイルミネーションを楽しみ、小学生から中高年まで、約40人が実際に人力発電を体験しました。「自分ががんばると、光が灯ることに感激した」「やろうと思えば、けっこう何でもできると思った」「一人一人の力を合わせて輝かせ続けることがうれしい」などの感想も聞かれ、大好評でした。

冬至の日になんで、西城地域の産物の魅力を学び伝えようと活動しているサムデイシェフ手づくりのカボチャスープと焼き菓子も振る舞われ、心と体をほっと温めていました。



▲自転車をこいでイルミネーションを灯す子どもたち



ぐるり庄原 Look Around Shobara Camera Report カメラレポート

各地で行われたイベント&話題をお届けします。

REPORT ⑦

しめ縄学びよい年に 総領で「しめ縄づくり教室」

しめ縄づくり教室が12月13日、総領町の高齢者活動センターで開催され、子どもからお年寄りまで約30人が参加しました。

この教室は、高齢者の生きがいづくりと世代間交流を目的に、総領支所地域振興室が呼びかけを行い、公民館や里山倶楽部が協力して実施。比和町の田原國男さんを講師に迎え、しめ縄づくりのコツを学び、全員が満足のいくしめ縄を完成させました。

田原さんから「皆さんとても上手に作られました。器用な方が多い」と誉められると、参加者は「自分で作ったしめ縄をお正月にかざろう」と笑顔が広がりました。



▲田原さんの説明を熱心に聞く参加者

花と俳句で「あったかい心」をプレゼント 比和小が「人権の花」を事業所に

REPORT ⑧



▲各事業所へプランターを配布

比和小学校が全校児童で大切に育てた「人権の花」を町内各事業所へプレゼントしました。

この「人権の花」は、パンジーやビオラの苗をプランターに植え付け、しばらく育てた後に、「花いっぱい人の心を おだやかに」など各学年から1句・また児童一人一人が1句ずつ俳句を作りプランターに添えたものです。

6年生が各事業所を回り配ると、笑顔で受け取り「ありがとう。大切に育てます」と感謝の言葉がかけられました。

REPORT ⑨

伝統行事の楽しさを次世代に 空高く！新春凧あげ大会



▲グラウンドを走り回る子どもたち

下町自治振興区元気クラブと東城保育所年長児が1月19日、正月の伝統行事「凧あげ」を行いました。

この凧あげ大会は、今年で3年目。元気クラブのメンバーが、竹ひごや凧糸を巻くこまを手作りし、子どもたちは和紙いっぱい思い思いの絵を描きました。

絶妙のバランスで製作された凧は、元気いっぱいにグラウンドを走り回る子どもたちによって、空高く舞いあがりました。

子どもたちは「凧が高くあがってうれしい。凧がどんどんあがると、糸を巻いたこまがくるくる回っておもしろい」と話していました。

訪れたい！まちの魅力を一枚に 「東城の四季・出会い」フォトコンテスト

REPORT ⑤



▲最優秀賞 「要害桜と菜の花」 新見敬子さん(倉敷市)

第1回「東城の四季・出会い」フォトコンテストが行われ、県内外から応募のあった32点から入賞作品13点が決定しました。

このコンテストは、東城町観光振興キャンペーン実行委員会と庄原市文化協会東城支部が、次世代に継承していきたい東城町の四季折々の自然や人々との出会いをテーマに開催。帝釈峡や一本桜の写真など自然部門に23点、お通りや流湍頂など生活文化部門に9点の作品が寄せられ、各部門の優秀賞それぞれ1点が選ばれました。最優秀賞には、新見敬子さん(倉敷市)の作品「要害桜と菜の花」が選ばれ、「桜と菜の花との空

間の捕らえ方や自然の持つ色がよく出ている」と高く評価されました。

審査員は「どの作品もレベルが高く甲乙つけがたい。来年は自然だけでなく東城町の人々とのふれあいの作品にも多く出会いたい」と話していました。

入賞作品は、昨年秋に開催した「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」で展示され、多くの方々に魅了されました。

■市内の入賞者

入選：穴光久夫さん(東城町)、立花敏之さん(三日市町)、赤木勝二さん(東城町)



▲優秀賞 生活文化部門「流湍頂」
穴光久夫さん(東城町)



▲優秀賞 自然部門「雄橋秋景」
小田 弘さん(東城町)

REPORT ⑥

比和の魅力を地域に発信 比和小学習発表会・音楽鑑賞会



▲比和のステキを発表

比和小学校が11月28日、地域の人を招き、「学習発表会・音楽鑑賞会」を開きました。

学習発表会では、子どもたちが生活科や総合的な学習の時間に町内へ出かけ、発見した「比和のステキ」を、それぞれの学年がパソコンや寸劇など工夫をこらして発表。「伝えよう！つながろう！ふるさと比和からの発信」をテーマに、比和町の魅力ある資源を発信しました。午後からは「青空金管合奏団」の演奏を楽しみました。

この日は、5年生が体験学習で収穫したもち米でついたもちを町内見学でお世話になった人にプレゼントしたり、比和自治振興区が作った豚汁を昼食で楽しんだり、地域の人との絆を深めた一日となりました。